

企画名	R-CPC 臨床検査を患者のケアに生かす-検査値を読んで病態に迫る- (日本臨床検査専門医会合同ワークショップ)
企画 責任者	下 正宗 (医療法人財団東京勤労者医療会東葛病院)
目的 概要	<p>プライマリケアの現場では、病歴聴取や身体診察を行ない、その結果をもとに、適切な検査が選択され実施される。また、ルーチン検査としてのスクリーニング検査が実施される場合もある。いずれにしても、疾患を診断し、治療法を選択するために臨床検査は大事な診療手段のひとつである。</p> <p>患者の貴重な検体から得られた臨床検査の結果をどう病態解析に用いて診断に迫っていくかは大変重要な作業である。「患者の示す検査値は基準範囲内に入っているので問題はない」とか、「基準値を外れているから異常である」とか、単に数値を議論するのではなく、基準値をはずれているといことはどんな病態を反映しているのか、基準範囲内にはいっていることは、患者のどんな状態を示しているのかなど、陽性データも陰性データも病態を理解する上でみな重要な検査所見である。</p> <p>CPC(ClinicoPathological Conference)は、臨床経過、画像所見、検査所見を併せてディスカッションし、最終的に病理組織学的な結果を併せて病態を解析していくものであるが、症例の検査値だけを提示して、そこから病態を追求し、鑑別診断、診断へと導く独特のスタイルをもつ症例検討が R-CPC(Reversed ClinicoPathological Conference)である。臨床検査をより深く読み、それに基づいて病態推論を進めていくための教育方法といえる。</p> <p>わが国への導入は 1970 年代で、国際臨床病理センター河合氏(元自治医大教授)により紹介され、臨床病理学講座のある大学で学生教育に用いられている。また、日本臨床病理学会学術集会の定番のセッションで、検査の専門家がさまざまな推論を繰り広げる人気のセッションとなっている。</p> <p>第 3 回本学会ではシンポジウム枠で行わせていただいたものであるが、学習方法として非常に興味深いという評価をいただいたので、また、コメディカルにとっても教育的意義が高いと考えられたので、本大会でも是非実施したいと考えている。プライマリケア分野の方々に「検査データで病態がここまで読める」という体験をしていただき、患者ケアにとって最良の検査の選択、解釈を身につけ、診断やケアの質を高めていただくための企画である。</p>